opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 22

ホセマリア・エスクリバーは 家族の財産を用いて学院と学 生寮を始めますが、事業は大 きな赤字を出します。

2023/09/22

過去の記事はこちらから

1934年9月、遺産相続のために故郷のフォンスに赴いた聖ホセマリアは、同じくそこにいた母と姉と弟にオプス・デイについて初めて打ち明けました。皆ある程度予想していた

こうして得た資金で、神父はアパートの二つの階を買い取り、学院と学生寮に仕立て学年の始まるのを待ちました。しかし、なんとこの時期に大変な事が起こるのです。1932年に成立した共和国政府は反教会の政策を次から次に実施していきましたが、これは国民の大半を占めるカトリック信者を敵に回すことになり、1934年の選挙で反教会勢力は敗れて

しまいます。そこで彼らは暴力に訴えてとにし、夏の終わりに各とにし、夏の終わりにもまた。そうイキや武装放棄を決行しては表力に変を決行している。特にアストライキや武装が発きされると修道士が殺されると修道士が殺されると修道士がそこで、名の教の司になっても入済を出る人が現れなかったのです。せいまる人が現れなかったのです。せいではまる10月になったのですますかのしたが現れなかでもまで、多額の借金だけが残ります。

去って行きました。それに対して、 神父に従っていた数人の若者たちは 聖ホセマリアへの信頼を失いません でした。

神は神父のこの信仰をお報いになって、冬頃から入寮者や神父の指導を受ける人がどんどん増えていきます。そのころ現れた人に、後に聖ホセマリアの後継者となるアルバロ・デル・ポルティーリョという学生がいました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-22/(2025/11/21)